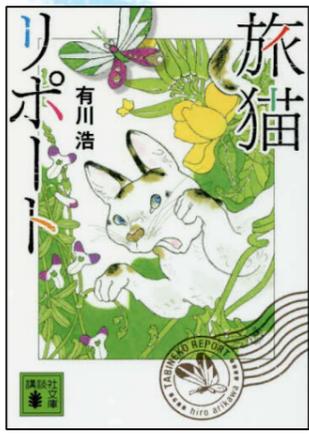
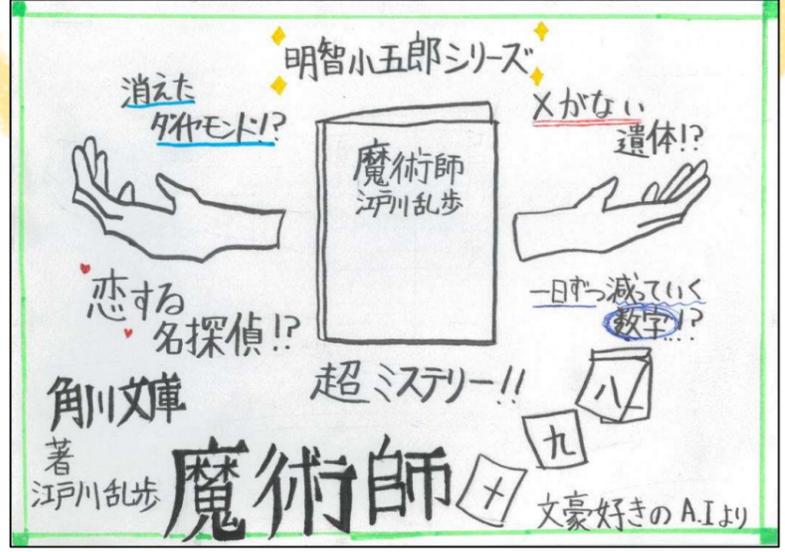
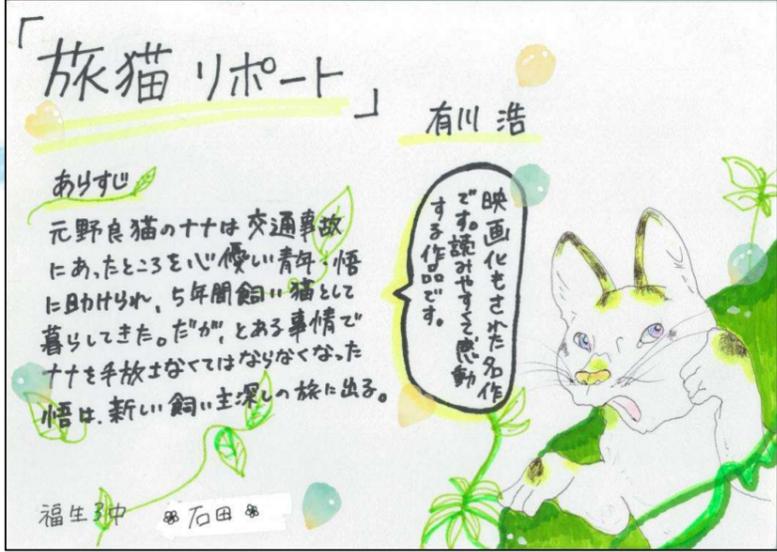


ペンネーム 石田さん
からのおすすめ！
「旅猫リポート」
有川 浩／著
講談社／刊
(二〇一七年)



ペンネーム 文豪好き
のA.Iさんからの
おすすめ！

江戸川 乱歩／著
KADOKAWA／刊
(二〇一三年)
©朝霧カフカ・春河35
KADOKAWA
文豪ストレイドッグス
制作委員会



福生第三中学校のみなさん、ありがとうございました！

う。一部だけ、ですが……。

一部はそれで説明がつくでしょ

ただの勘違いでしょうか？

覚か、はたまた自然現象、もしくは

の。これらは人々の畏れが生んだ幻

は、近年急速に姿を消しつつあるとい

います。単なる不思議な話ではなく、民話

を語り継ぐ、山への感謝と敬意を忘れな

いようにする。そういった視点からこの

本を読むのも、楽しみ方のひとつでし

う。

そんな山では、不思議なことが

度々起こります。謎の音や光、いる

はずのない人、あるはずのないも

の。これらは人々の畏れが生んだ幻

は、近年急速に姿を消しつつあるとい

います。単なる不思議な話ではなく、民話

を語り継ぐ、山への感謝と敬意を忘れな

いようにする。そういった視点からこの

本を読むのも、楽しみ方のひとつでし

う。

起こる。」

「山では、なにか不思議なことが

活の糧や季節の恵みを山から得て、

山とともに生きてきました。山と

人々は、文化や経済、信仰などの面

で今も密接なつながりがあり、精神

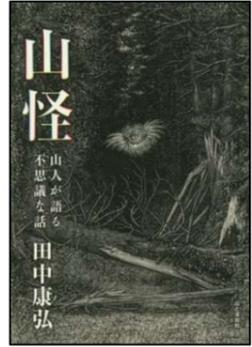
的なよりどころにもなっています。

人々は山に感謝するとともに、それ

を畏れ、敬ってきたのです。

「山怪 山人が語る
不思議な話」

田中 康弘／著
山と溪谷社／刊
(二〇一五年)



図書館からおすすめ！
この本、読んでみませんか？



山で仕事をし、生活をしている人からすれば、山での不可解なことは「よくあること」「ありうること」でした。かつては集落の年長者が子どもたちに自身の不思議な体験を語る場面がよくあったのですが、近年ではそのような機会もなくなって久しいものです。同時に語り部の役割は、このような本に移ったともいえるでしょう。

本書では、猟師、林業従事者、登山ガイドなどさまざまな立場の「山人」が、伝えた話、伝承、自身で体験した話などを紹介していますが、不思議なことに地域も時代も異なる話のなかに、ときおり共通点が見られることがあるのです。たとえば、山で大きな音を出すのは狸のしわざ、奇妙な光を見せるのは狐のしわざ。日本列島の西から東まで、こういった共通の認識が昔からあるようです。

狐につままれた、狸に化かされたといった不思議な話のほかにも、有名なUM A「ツチノコ」の話、神秘的な神様からちよつとこわい怪談まで、山で暮らす人々「山人」からのたくさんエピソードを地域ごとに収録しています。

かつて日本中の山々でみられた山の神は、近年急速に姿を消しつつあるとい

います。単なる不思議な話ではなく、民話

を語り継ぐ、山への感謝と敬意を忘れな

いようにする。そういった視点からこの

本を読むのも、楽しみ方のひとつでし

う。

続巻も刊行されているので、あわせてどうぞ。



活動の様子 (2009年)

スタッフ募集ページ



(<https://www.lib.fussa.tokyo.jp/info/2022/06/post-46.html>)

6/post-46.html)

いろいろは新聞編集
スタッフを募集して
います！

好きな本の紹介、イラストの作成など、自分の得意な分野で活動できます。

対象は、市内在住・在学
の中・高校生世代です。
興味のある方は、図書館ホームページの募集ページをご覧ください、中央図書館臨時窓口までご連絡ください！